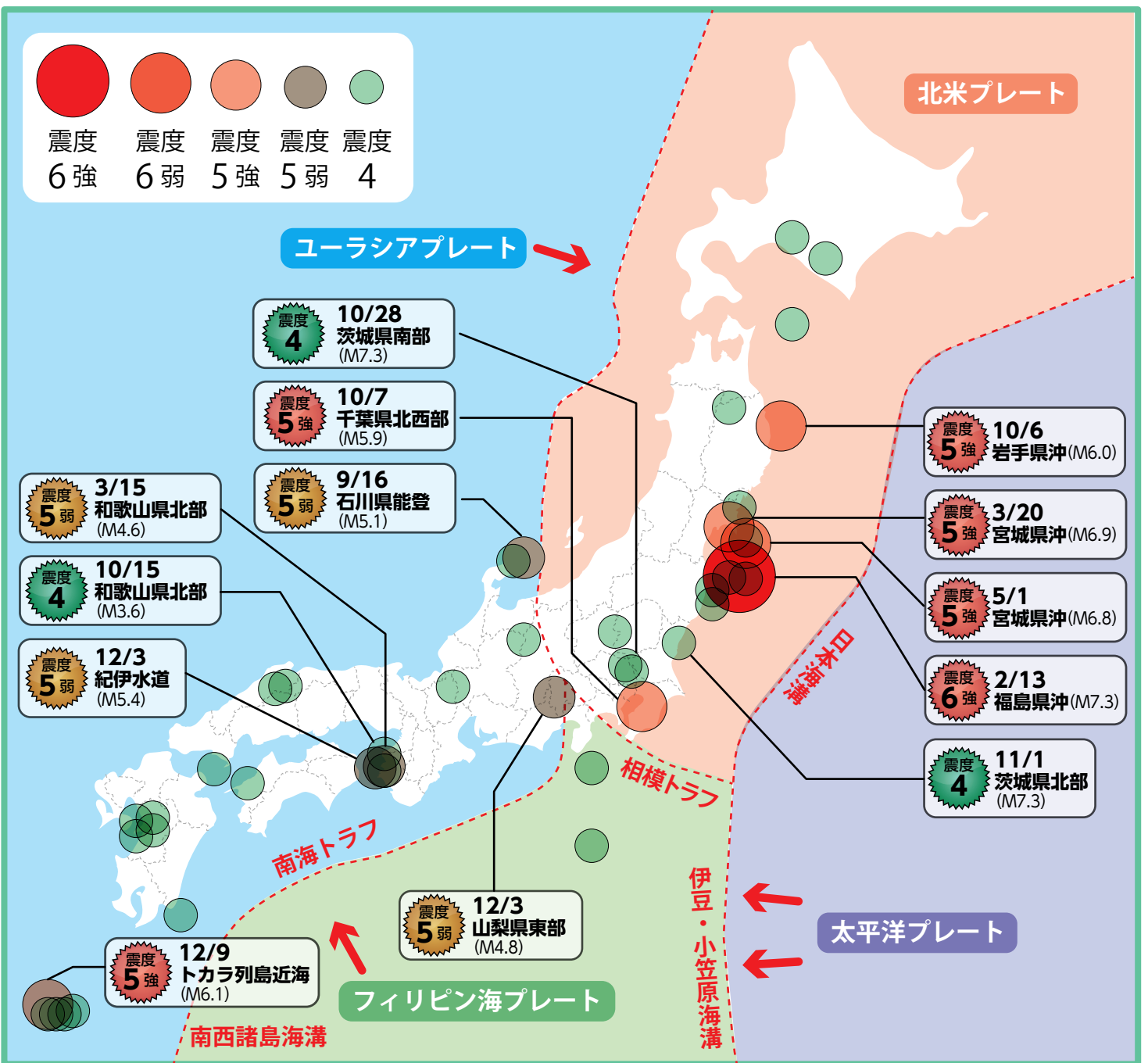


2021年の地震発生回数（震度1以上）は2424回。 過去12年間では4番目に多かった年でした。

2021年 主な地震発生マップ（震度4以上/1月1日～12月31日）



※気象庁HPなどを基に作成

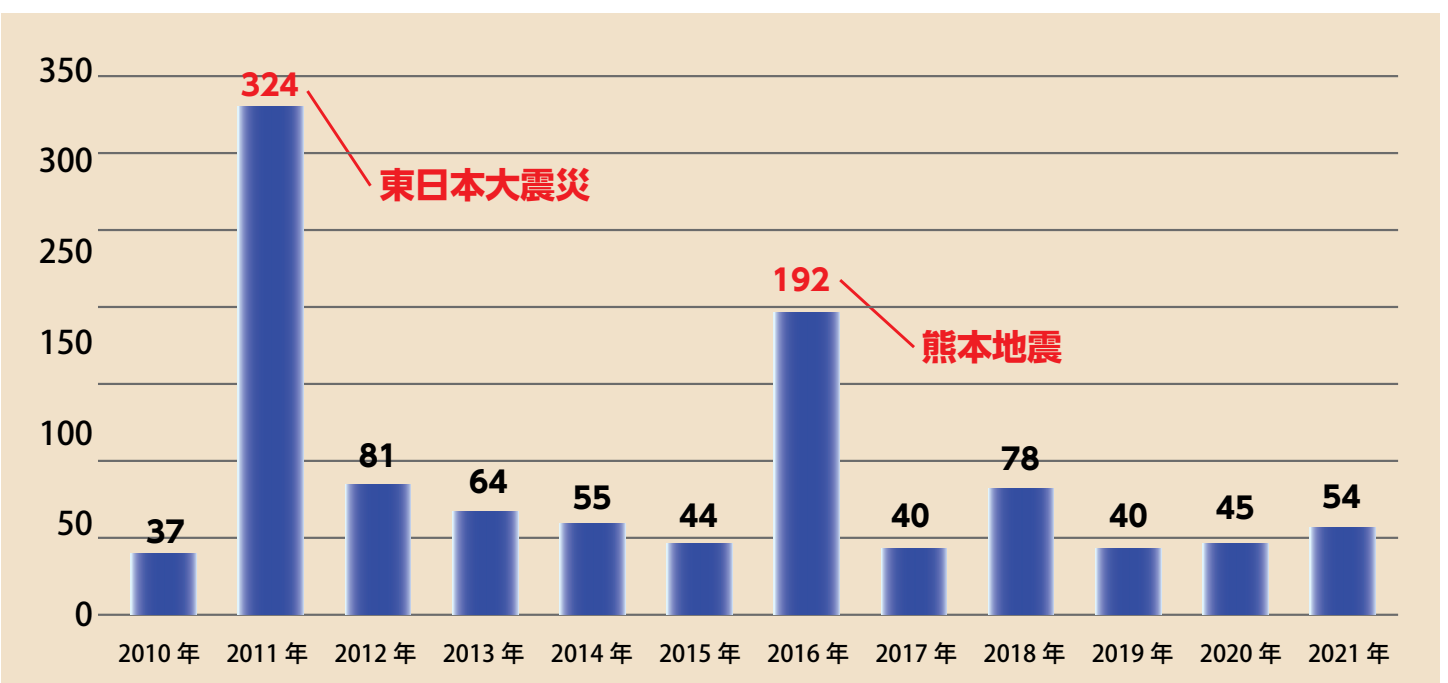
ここに掲載した図は、今年発生した震度4以上の地震を○印で示しています。今年の最大震度は、2月13日に起きた福島県沖を震源とする地震の「震度6強」の地震でした。

気象庁データベースによる、今年の震度1以上の地震数は2424回（12月31日現在）です。

東日本大震災の前年の2010年から、今年までの12年間の地震発生回数（震度1以上）を調べてみると、最も多かったのが、東日本大震災の2011年の1万638回、次が熊本地震の起きた2016年の6587回でした。この12年間の年間平均地震発生回数は約3155回で、今年は、平均を下回っているように見えますが、3位=2012年(3138回)に続く4番目に多い年になりました。また震度4以上の地震が54回で、一昨年40回、昨年45回から増加傾向にあるのが気になります。

参考までに、この12年間の震度4以上の地震数をグラフにすると下図のようになります。

震度4以上の地震回数（2010年～2021年）



地震専門家の先生は、大地震発生が懸念されるポイントは2つあるとしています。

1. 関東圏に溜まった「歪み」
2. 和歌山県付近の地震で見える南海トラフの危険状態

首都圏は北米プレートの上にあります。その下にフィリピン海プレート、さらにその下に太平洋プレートが沈み込んでいます。近年、太平洋プレートの動きが活発化していることにより、首都圏直下型地震、相模トラフ地震などが懸念されます。首都圏で起きれば、東京の下町や地盤の軟らかい地域では、震度7を超える地震が発生することも予想しておかなくてはならないでしょう。また、普段はあまり地震が起きない紀伊半島近辺で大きめの地震が発生していることで、前々から懸念されている南海トラフ地震に対する備えをしっかりと行う必要性を感じます。